

統計で見る京丹後の実態

平成25年中の市内の火災発生状況や救急救助活動など、消防・防災に関する各種の統計調査結果をお知らせします。

消防の広場

119

火事・救急・救助

付けていますか
住宅用火災警報器
月に一度は動作点検

火災

前年比7件減少
20件

「安心・安全」なまちづくりに向けて

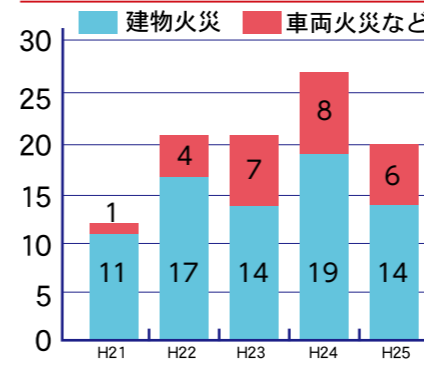


消防長 吉田 健 昨

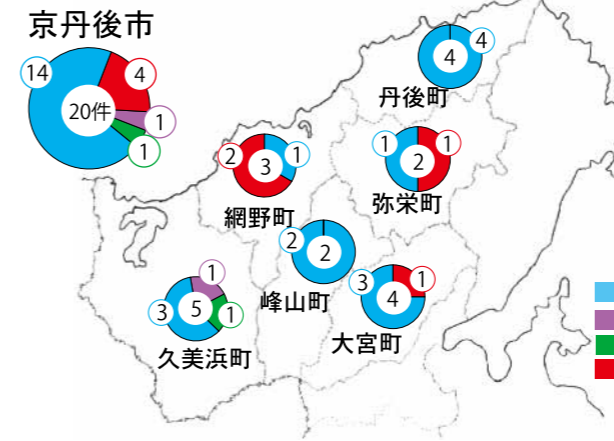
昨年は、福知山花火大会露店爆発事故や特別警報が発令された台風18号など、府内で大規模な災害が発生しました。身近な危険物の怖さや、自然災害の脅威をさらに感じた年ではなかったでしょうか。

幸い、京丹後市ではそのような大規模な災害は発生しませんでした。水難事故やトンネル崩落事故などをはじめ、死傷者が出る災害もいくつか発生しました。近年は、災害の形態も複雑多様化しており、消防の果たす役割も益々重要となってきました。安心・安全のまちづくりの実現に向け、今後も職員一同全力で取り組んでまいります。

火災で死者1人、負傷者10人



▲過去5年間の火災件数
▼地域別火災発生状況



コンデンサ火災が3件

建物火災の出火原因は、「電気装置」(低圧進相コンデンサ)によるものが最も多く、3件発生しています。低圧進相コンデンサの火災は全国的に増える傾向にあります。京丹後市内でも平成22年に2件、23年に1件発生し、近年の主な出火原因の一つとなっています。

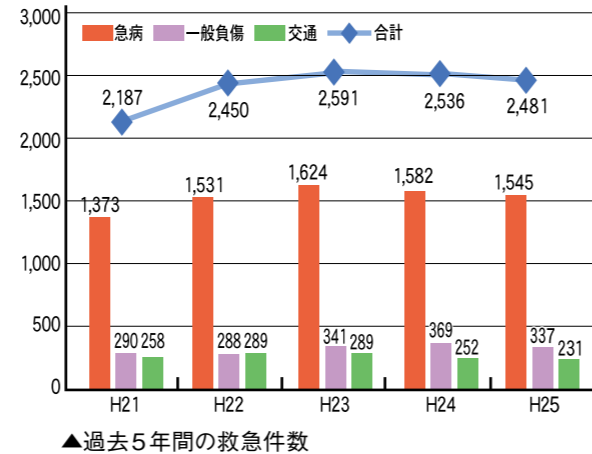
ドクターヘリの要請過去最多103件

救急

1日最多22件出動
2,481件

救急件数は前年から55件減少の2481件でした。最も出動が多かった日は8月12日で、22件出動しました。急病が1545件(全体の約62%)と半数以上を占め、一般負傷は337件(全体の約14%)、交通事故231件(全体の9%)でした。ドクターヘリの要請は、過去最多の103件でした。

救急車による搬送人員は2383人でしたが、このうち約45%は入院を要しない軽症でした。引き続き、救急車の適性利用にご協力をお願いします。市消防本部では、心肺蘇生法やAEDの使い方、けがへの対応などの応急手当を習得していただくことを目的に、救急講習を開催しています。昨年は102回開催し、2398人が受講しました。もしものときに備えて、あなたも応急手当を学んでみませんか? 詳しくは、峰山消防署救急係(69-0119)までお問い合わせください。



▲過去5年間の救急件数

問い合わせは62-0119番へ

通信

2割強が目的外
3,484件

119番受信件数は、前年から56件減の3484件でした。このうち、「目的外」の受信が734件(全受信件数の21%)でした。119番は緊急通報専用の電話番号です。本当に命にかかわる通報が受信できないこともありますので、問い合わせなどは、「62-0119番」へおかけください。

コンデンサ火災に注意

「低圧進相コンデンサ」とは?

低圧進相コンデンサは、業務用冷蔵庫やモーター等を使用する電気機器の力率を改善し、電力の無駄を省く機器として、店舗や作業場などで使用されています。京丹後市内では、特産品である丹後ちりめんの製造に使われる織機にも多くの低圧進相コンデンサが使用されています。

古いコンデンサは発火の危険

昭和50年(1975年)以前に製造された低圧進相コンデンサは保安装置が内蔵されておらず、また、長期間の使用に伴う経年劣化により、火災を起こす危険性があります。

昨年市内で発生した低圧進相コンデンサの火災は、いずれも昭和50年以前の製造品からの発火によるものでした。

自宅工場を確認を

消防本部では、低圧進相コンデンサによ

る火災の注意喚起のため、市内の織物工場を中心に、計729軒を戸別訪問しました。

その結果、設置されている低圧進相コンデンサの約半数は、発火危険の高い昭和50年以前に製造されたものでした。

織機や業務用冷蔵庫等を設置している方は、必ずコンデンサの製造年を確認して下さい。昭和50年以前に製造されたコンデンサを使用している場合は、早急に使用を停止し、取り替えをお願いします。



▲昭和46年製造の低圧進相コンデンサ

携帯からの通報は目印を

昨年の119番通報の25%は携帯電話からの通報で、年々増加しています。携帯電話から通報する場合は、場所を特定するのに時間が掛かる場合がありますので、災



▲標識等を伝えるのも効果的です

害場所や目印となる建物、標識などを確認し、伝えてください。



▲交通事故を想定した救助訓練

毎年死者が発生

救助出動件数は35件でした。交通事故による出動が19件と半数以上を占め、水難事故は6件、その他の出動は10件でした。その他の出動の中には、平成25年4月に大宮町で発生した掘削工事中のトンネル崩落事故が含まれます。死者は7人で、そのうち4人は水難事故によるものでした。水難事故は、平成23年に6件、24年に7件発生しており、毎年死者が出ています。波が高いときや体調がすぐれないときは、海水浴を控え、事故を未然に防ぎましょう。

救助

過去3年で水難20件

35件